

# 令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【原山小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策	
知識・技能	クラウドに着目した研修に取り組み、ICTを活用した授業に多くの教員が取り組むことができていた。教職員全体の授業改善、学力向上への意識が醸成されてきていると言える。特に算数では、知識・技能の評価観点において全国平均・県平均・市平均等で大きく上回るような成果も出すことができていた。しかし、国語科、理科、社会科では算数ほどの伸びが見られないという課題も出てきた。次年度では、今年度と同様に学校課題研修と連携し、まずは国語科での授業改善に積極的に取り組んでいき、学校全体の学力の底上げを図り、さらに伸ばしていきたいと考える。	
思考・判断・表現	クラウドに着目した研修に取り組み、ICTを活用した授業に多くの教員が取り組むことができていた。教職員全体の授業改善、学力向上への意識が醸成されてきていると言える。令和6年度は、ICT活用による学びの質・能力が育みられていないという反省もある。次年度は、今年度培ったICT活用能力を教員、児童も発揮した上で、教科で身に付けさせるべき資質・能力にも目を向けた授業改善を進め、思考・判断・表現の力を育んでいきたい。	

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p>&lt;学習上の課題&gt; ICTを活用している学年ほど習熟度が高い傾向があり、学年間に差が見られている。</p> <p>&lt;指導上の課題&gt; ICT機器の操作や活用について教員間での差が大きくなってきている。</p>	<p>⇒ 教員がICTを活用できるよう、ICT関連の校内研修を昨年度より多く設定する。</p> <p>・ドリルパークなどのアプリソフトに単純に頼るのではなく、普段の授業に必然性や必要感あるICT活用の授業プランを教員全体で検討していく。【45分授業中、15分は一人一台端末を使っているような状態を作る。】</p> <p>研修や職員集会等の場を生かし、E/Lジェリストを中心にICT活用を得意とする教員のスキルを全体で共有し合えるように【学期に1回以上実施】</p>
思考・判断・表現	<p>&lt;学習上の課題&gt; 複数の情報を整理したり比較したり既習の知識と関連付けたりする力に課題がある。</p> <p>&lt;指導上の課題&gt; 思考・判断・表現の力は教科横断的に育成していく必要があるが、依然として教科毎に捉えがちな傾向がみられる。</p>	<p>⇒ 学校課題研修と連携し、学校全体として課題意識を共有し、授業改善に取り組んでいく【R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」の質問項目において、肯定的な回答の割合90%以上達成】</p>

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	A	<p>① 教員がICTを活用できるよう、研修内容を見直し、学びのポイント「し・しゃ・く」に基づく授業改善を進めた。年度当初に掲げた45分中、15分は一人一台端末を使っているような状態は達成できている。4年生以上の学年では児童が授業準備の時点で自然とタブレットを準備する様子も見られタブレットの普段使いが浸透した。また、中間期見直しで計画した学びのポイント「し・しゃ・く」に基づく授業を各教員が実践し、見合うことも実行することができている。さらに、3学期には指導主事を招いての研究授業と協議会も行うことができた。その成果もあって、全国学力学習状況調査、さいたま市学習状況調査における知識・技能の評価観点では市の平均を上回ることができた。</p>
思考・判断・表現	A	<p>② 教員がICTを活用できるよう、研修内容を見直し、学びのポイント「し・しゃ・く」に基づく授業改善を進めた。ICT活用を推進した中で、教科の見方・考え方の大切さを学校全体で再確認することができた。教科の見方・考え方の様な普遍的に重要とされるものを追及していることで、教科横断的な視点も持つこともできている。また令和6年度さいたま市学習状況調査及び、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」の質問項目において、肯定的な回答の割合が5年生で92.5%、6年生で93.4%と年度当初に掲げた目標を達成した。</p>

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	<p>国語・算数共に県平均を上回っている。国語では正しい漢字を文中の中で使う問題において課題が見られ、解答類型を見ると「鏡技」の鏡の誤りが3割以上になっていた。字形が複雑な漢字の習熟については学力の差が開いていると推測できる。ドリルパーク等を活用し、習熟度を高めていきたい。算数では速さの意味についてを問う問題の正答率が70%を下回っていた。解答類型を見てみると、道のりを表す図と、時間を表す図の違いに気付かず解答していることが誤答の主原因となっている。丁寧に読み、思考すれば正答率が高まると思われる。問題文をよく読み、身に付けた知識・技能を適切に活かせるよう、指導の工夫・改善を図ってほしい。</p>	
思考・判断・表現	<p>国語・算数共に全国平均・県平均と比べても高い結果となった。国語では、文部科学省から課題として挙げられていた「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる」かどうかを見る問題に関しては平均と比べて12ポイント高い。算数においても「思考・判断・表現」を見る問題は全てにおいて平均より高い。「考えを書く」問題の学力が定着していることが明らかになり、日々の授業で「自分の考えをもつ」ことを大切にできた成果として捉えることができる。</p>	

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	<p>全体同年比較において、ほとんどの項目で市の平均を上回っている。知識・技能の評価観点で見ると、算数で、3年生が市平均を5ポイント以上上回っており、低学年での積み重ねが結果として表れている。6年生でも5ポイント以上高いことから、学校全体で算数の学力が向上していると言える。国語においても全学年で市平均を越えており、6年生では3ポイント程度高い結果となった。知識・技能においては日頃の授業改善の成果が出ており、次年度以降も続けていきたい。</p>	
思考・判断・表現	<p>全体同年比較において、ほとんどの項目で市の平均を上回っている。思考・判断・表現の評価観点で見ると、算数は3ポイント以上の学年が3学年あり、知識・技能同様に算数の学力は向上してきている。一方、国語は、5年生において+2ポイントで一番高く、他の学年はほぼ市平均と同値に近い結果となり算数ほどの強みは出ていない。また6年生の「書く」領域は全国学力・学習状況調査で、高い成果を見出すことができていたが、さいたま市学習状況調査では市平均を下回っている。設問ごとの解答を詳細に見ると問題の後半になるほど無解答率が高くなる傾向が見られ、それが結果に反映しているとも考えられる。最後まで粘り強く取り組む「考え抜く姿勢」を身に付けられるように授業改善に取り組んでいく必要がある。</p>	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	<p>教員がICTを活用できるよう、研修内容を見直し、学びのポイント「し・しゃ・く」に基づく授業改善を進めた。特にクラウドに着目した研修を多く行い、実際にICTを活用した授業が増えている。また、夏季には外部講師を招いてICT研修を行った。</p>	<p>年度当初に掲げた目標に加え、学びのポイント「し・しゃ・く」に基づく授業を各教員が実践し、見合う場を設定する。</p>
思考・判断・表現	A	<p>R6年度全国学力・学習状況調査質問紙調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が93%となった。学力調査の結果からも授業改善の成果が出てきているといえる。</p>	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)